

8. ブドウ白紋羽病に対するフロンサイドS Cの連年処理効果（技術）			
[要約] フロンサイドS Cを毎年1回土壌灌注処理すると、ブドウ白紋羽病の多発圃場でも被害を抑制できる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

## [背景・ねらい]

ブドウ白紋羽病に対する効果の高い薬剤として、フロンサイドS Cが普及しているが、毎年連用した場合の効果についてはまだ明らかではない。そこで、本剤の年1回の土壌灌注処理（堀上げ灌注処理又は注入器による灌注処理）の連用が、本病の多発圃場においても長期間有効か否かを明らかにする。

## [成果の概要・特徴]

1. 白紋羽病の多発圃場で、未発病樹に年1回、根部を堀上げてフロンサイドS C 1,000倍及び2,000倍液を流し込み、土壌と混ぜながら埋め戻す処理を6～9年間続けたところ、どちらの濃度ともわずかに枯死根はみられたが、長期間地上部の被害を抑制できた（表1）。
2. 白紋羽病の多発圃場で、未発病樹に年1回、同剤500倍、1,000倍及び2,000倍液の注入器による土壌灌注処理を3～6年間続けたところ、いずれの濃度とも枯死根の発生はみられたが、地上部の被害は認められなかった（表2）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 本剤は土壌中に浸透しないので、注入器で灌注する際に土壌が固くしまっている場合には、あらかじめ土壌をほぐしてから処理する。
2. バーク堆肥を多量に施用した土壌では本剤の効果がやや劣り、残効期間も短い傾向にあるので、株元への堆肥の施用を控える。

[具体的データ]

表1 ブドウ白紋羽病に対するフロンサイドS Cの連年処理効果（堀上げ灌注処理）

圃場	希釈倍率	処理量(L/樹) <sup>Z</sup>	連年数(年) <sup>Y</sup>	供試樹数	根部表面の菌発生樹数 <sup>X</sup>	枯死根発生樹数 <sup>X</sup>	地上部被害樹数 <sup>X</sup>
K圃場	1,000倍	50~200	7~9	4	0	3	0
	2,000倍	50~200	7~9	4	1	2	0
Y圃場	1,000倍	50~200	9	1	0	1	0
	2,000倍	50~200	6~8	2	0	1	0

注) マスカット・オブ・アレキサンドリア

<sup>Z</sup> 樹の生育、大きさに応じて処理量を流し込み、土壌と混ぜながら埋め戻した

<sup>Y</sup> 月に1回/年の処理

<sup>X</sup> 調査時からさかのぼった4年間の樹数、枯死根は直径5mm以上の根数

表2 ブドウ白紋羽病に対するフロンサイドS Cの連年処理効果（注入器による灌注処理）

圃場	希釈倍率	処理量(L/樹) <sup>Z</sup>	連年数(年) <sup>Y</sup>	供試樹数	根部表面の菌発生樹数 <sup>X</sup>	枯死根発生樹数 <sup>X</sup>	地上部被害樹数 <sup>X</sup>
T圃場	1,000倍	50	6	2	0	0	0
Y圃場	500倍	50~100	4~5	4	1	4	0
	1,000倍	100	3	2	1	1	0
	2,000倍	50~100	3	1	0	0	0

注) Y圃場；グロー・コールマン、T圃場；マスカット・オブ・アレキサンドリア

<sup>Z</sup> 樹の大きさに応じた量を主幹の半径約1m内に深さ30cmまで注入器で灌注した

<sup>Y</sup> 3月に1回/年の処理

<sup>X</sup> 処理開始から調査時までの樹数

[その他]

試験研究課題・事業名：果樹主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験

予算区分：県単

研究期間：平成9~17年度

関連情報等：平成9年度試験研究主要成果「ブドウ白紋羽病に対するフロンサイドS Cの効果的な使用法（参考事項）」

平成10年度試験研究主要成果「ブドウ白紋羽病防除薬剤フロンサイドS Cの使い方」